

年 組 名前：

問1

「データ農業」の内容と狙いは何ですか。

・内容

.....

.....

.....

.....

・狙い

.....

.....

収量増へ「データ農業」

県 ブドウ、野菜で確立へ

山梨県は来年1月から、ブドウのシャインマスカットなどを対象に、生育に関するデータを収集し、分析結果を基に栽培方法を見直す「データ農業」を推進する。気象条件や土壌の状態などに応じた栽培方法を確立することで、収量の増加につなげる狙い。

県農業技術課によると、対象とするのはシャインマスカットのほか、ナス、キュウリ。温度、湿度、雨量などの気象データや、土壌に含まれる養分や水分、太陽光の強さなどを調査し、栽培に適した環境を分析する。県総合農業技術センターや県果樹試験場などに建設するハウスで実験を進める。集まったデータは専門機関に分析を依頼、高品質で生産性の高い農作物の栽培方法を研究するという。

データ分析による農業は農業先進国のオランダで進んでいる。ハウス内の二酸化炭素(CO₂)濃度を調整し光合成を促進することでトマトの生産量を増加させた事例があるという。県は栽培方法を確立させることで、シャインマスカットとナスで従来の1・5〜2倍、キュウリで5倍の収量増を見込んでいる。

県内の農作物の生産量は高齢化や後継者不足による離農者の増加で年々減少傾向にあり、2020年は10年前より約4万ト少ない約16万5600トだった。県は「データ農業」を通じて農家の収量を増加させることで、生産量の減少に歯止めをかけた考え。

来年1月から調査を始め、23年度までに栽培方法を確立させ、24年度に普及を進める方針。

同課の担当者は「データ農業による栽培方法が確立できれば、高品質でありながら、大きく生産量を増やすことができ、農家の収入増にもつながる」と話している。

〈山本昂輝〉

(2021年12月6日付 山梨日日新聞1面)

問2

データ農業の推進対象とする3種類の農作物名と、従来に比べ何倍の収量を見込んでいますか。書いてください。

《 農作物名 》

《 従来は何倍 》

「 」 「 」 倍

「 」 「 」 倍

「 」 「 」 倍

問3

次の漢字の読み方を書いてください。

分析 「 」 栽培 「 」 土壌 「 」 湿度 「 」

環境 「 」 促進 「 」 普及 「 」 後継者 「 」